

市川英子議員の六月定例議会の一般質問をお知らせします。

市内循環バス「はむらん」について

「玉川地区にも運行すべきでは」

運営推進懇談会からも要望がある。市としても懇談会でいただいたご意見は利便性の向上が図れる策であると認識しており、すでに関係機関と協議している。

「バス停にベンチの設置を検討すべきでは」

バス停を設置する場所の確保が困難で、さらにベンチとなると、なかなか実現が難しいものと考えている

「運行時間の延長をすべきでは」

市民からも、時間延長に関する要望がありますが、時間の延長には運行経費が大きく増加する。そのため、利用形態ね利用時間等を分析し、込んだ会において検討していただきたいと考えている。

「高齢者は無料にすべき」

運賃の設定は「コミュニティーバス運行に関する懇談会」での検討結果を踏まえたほか「羽村市老人クラブ連合会」にも案を提示しご理解をいただいたもので、無料にする考えはない。

「バスの台数を増やし、一方回りだけでなく、反対方向の運行も考えるべき」

バスの台数を増やすことや双方向の運行をすることは現在考えていない

高齢者がいこいの里を利用するにはむらんが走る前までは無料でした。ですから毎日のようにいこいの里を利用できましたが有料になり、またお弁当代も上がり、気軽に利用できなくなりました。いま、高齢者の暮らしは年金は下げられ、税金や介護保険料の負担が「雪だるま」のように増え続けさらに今後医療費の負担増、消費税の引き上げも言われています。羽村市が高齢者に100円のバス代も無料に出来ないとは本当に情けない限りです。 市民の声



羽村からの行進者は羽村市役所前広場で青梅からの参加者と合流し小集会を行った後福生へと行進しました。鈴木たくやさんが元気に挨拶し市長からのメッセージが井上課長により代読され、行進者を励まして頂きました。

羽村市役所から福生まで平和行進に参加しました

市長からのメッセージが課長から紹介されました。

2006年原水爆禁止国民平和行進に参加の皆様へ

原水爆禁止国民平和行進にご参加の皆さん、本日は誠にご苦労様です。

5月6日に北海道の礼文島を出発されて以来、「核兵器のない平和で公正な世界を求め」これまでに2ヶ月間にも及ぶ長期にわたり、平和行進を続けてこられた、皆様のご苦労に対しまして、心から敬意を表します。

我が国は、世界で唯一の被爆国として、核兵器による悲惨な体験をしてきましたが、歳月の経過とともに、被爆国としての記憶も薄らいできています。しかし、戦争を知らない若い世代にも、戦争の悲惨さを伝え、平和や命の尊さを継承していくことは、私たちに課せられた重要な使命と考えております。

羽村市としても、憲法の平和精神を守り、世界の人々と手を携えながら、戦争の防止と、核兵器のない世界平和の実現に向け、平成7年8月に「平和都市宣言」を行うとともに、これまで数十年間にわたり平和思想の普及活動に取り組んできました。更に昨年度、全国市長会においては、核兵器のない世界が一日も早く実現されるよう「核兵器の廃絶を求める決議」を行いました。

また、羽村市議会においても、昨年6月「核兵器廃絶実行のために日本政府の尽力を求める意見書」を内閣総理大臣、外務大臣、内閣官房長官へ提出し、市民の皆さまと一緒に、世界平和の実現に取り組んでいるところです。

依然として、世界各国では、地域紛争やテロが絶えることなく、人々の生命や生活が脅かされ続けていることは極めて遺憾なことでありますが、私も平和を願う羽村市民を代表して、不戦と恒久平和を誓い、この美しい郷土を未来に伝えていくために、国際平和の実現に向けて、絶え間ない努力を続けていく覚悟です。最後になりますが、この平和行進の大成功を祈って、私からのあいさつといたします。

平成18年7月22日

東京都羽村市長 並木 心